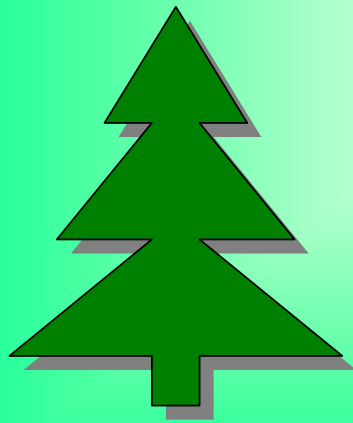


第33回愛知学院大学モーニング・セミナー

**「なぜ12月は
歓喜の歌なのか？」**

－第九のなぞを探る－



**名古屋音楽大学
教授 田中 省三 先生**

2008年12月9日

- 1824年5月7日 ウィーン宮廷劇場～世界初演
 指揮者:ウムラウフ&ベートーベン
- 1919年6月1日 徳島坂東捕虜収容所～日本初演
 指揮:軍楽長ハンセン
- 1924年11月29日 東京音楽学校～日本初演
 ～30日 指揮:グスタフ・クロン
- 1928年12月18日 新交響楽団の第40回定期演奏会
 ～19日 指揮:近衛秀麿(独唱者はドイツ人)
- 1930年2月22日 新交響楽団の第64回定期演奏会
 指揮:近衛秀麿
 ～すべて日本人で初演～

■ 日本で第九が広まった理由～

- 1) 「歓喜の歌」が長く賛美歌として歌われたこと。
賛美歌140番（譜例）
- 2) 「歓喜の歌」が唱歌としても広がった。
昭和22年学習指導要領音楽譜で6年の教材
- 3) 「歓喜の歌」が昭和37年、中学1年の教材の
必修共通教材に指定

■ 第九はなぜ年末の風物詩になったのか！

ベルリンでは、戦前からニューイヤークンサートとして大晦日の深夜に第九を演奏する機会が多く、それが日本に持ち込まれたのではないか。欧米では著名な指揮者でもなかなか第九の指揮経験はもてないが、日本では結構若い指揮者でも平気で降らせてもらえる。

カラヤンでさえ、1年に1~2回だった。つまり日本では、世界の平均回数をはるかに超え、第九天国とさえいえる。なぜこんなに多いのであろうか？

- 1) ベートーベンの「田園」、「運命」などの演奏も多く、ベートーベン好きである。
- 2) 地方都市に立派な会館があり、第九を上演できる空間がある。
- 3) アマチュア合唱団がプロのオーケストラや独唱者と競演できる音楽体験が可能。
- 4) 第九は満員の客が動員でき、興業のメリットがある。
- 5) ドイツ語の発音を覚えて、1回ではもったいないから継続する。
- 6) 歓喜の歌は誰にでも覚えられるシンプルな旋律である。
- 7) シラーの詩が人類愛としてすばらしい。

Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus Elysium!

歓喜よ、美しい 神々の火花(輝き)よ、乙女よ、から(来た) 天上の楽園

Wir betreten feuertrunken, Himmlische, dein Heiligtum!

われらは 足をふみ入れる、火をのんで(情熱に溢れて) 崇高な 汝の 聖なるところに

Deine Zauber binden wieder, was die Mode streng geteilt,

汝の 魔力(奇しき力)は結びあわせる。ふたたび ものを 時流が 厳しく 切り離した

alle Menschen werden Brüder, wo dein sanfter Flügel weilt.

すべての 人びとは になる。兄弟(同胞) 所で 汝の やわらかい 翼が 留る

HYMN TO JOY

140

John C. Davison, 1884

8 7 8 7 D

Arranged from Ludwig van Beethoven, 1806

あめにはつかひよろこびうたへ
 つちには上のひとみつけをさげや
 わがきみこのひどしにかちませる
 いのちもまこともみちもいへなり

Ring, O ring, ye chimes of glory

一四〇

歌示 一・二八

一 あめには御使
 つちには世の人
 わが君この日ぞ
 生命もまことも
 死に勝ませる
 道もいへなり

二 よろづの國民
 争ひあへりし
 まことの御國の
 獨の御子をば
 急ぎきたりて
 むかしを忘れ
 もとみ定めし
 君としあふげ

三 われから輓に
 解けしを知らずや
 朽つべき生命は
 顯れそめたり
 なやめる者よ
 罪のなはめの
 早うせゆきて
 朽ちぬ生命は

四 御國にあたなす
 天つみさかえに
 このころを盡して
 最後の勝利こそ
 惡魔にかちて
 のぼり給ひぬ
 君にたよらば
 我手にあらめ

『賛美歌』(昭和6年版)
 第140番に掲載された
 「喜びの賛歌
 (Hymn to Joy)

よろこびの歌

An die Freude
交響曲第九番より

蘇田 義雄 作詞
L.van ベー多芬 作曲
信時 深 編曲

おおらかに J-104

mf

Freu - de, schö - ner Göt - ter - fun - ken, Toch - ter aus E - li - si - um!

1. よ あ け の そ ら に fun - ken, Toch - ter aus E - li - si - um!
2. は な さ く そ は る に は わ き た う つ を こ こ え め て

mp

Wir be - tre - ten feu - er - trun - ken, Him - mli - sche, dein Hei - lig - thum!

ゆ う べ の feu - er - trun - ken, Him - mli - sche, dein Hei - lig - thum!
み の り の あ き に は や わ ら ぐ が
の り の あ き に は い の り を こ こ え め て

mf

Dei - ne Zau - ber bin - den - wie - der, was die Mo - de streng ge - theilt, al -

あ ふ れ る よ ろ - こ び ひ と - し く う た い き
あ ふ れ る よ ろ - こ び も の - み な う た い か

f

- le Men - schen wer - den Brü - der, wo dein sanf - ter Flü - gel weit.

- ら め く て ん ち に ひ び き を か え す
- が や く て ん ち に ひ び き を か え す